

ウ) 猛禽類

確認された猛禽類のうち、表 10.5-19 に示すとおり 6 種が重要な種に該当した。6 種全てが対象事業実施区域外で確認され、調査範囲内での営巣（繁殖）は確認されなかった。

各種の確認状況は、表 10.5-20 及び図 10.5-4 に示すとおりである。

表 10.5-19 重要な種（猛禽類）

No.	種名	対象事業実施区域		重要な種の選定基準*			
		内	外	I	II	III	IV
1	ミサゴ		○			NT	VU
2	ハチクマ		○			NT	EN
3	ハイタカ		○			NT	EN
4	オオタカ		○			NT	EN
5	サシバ		○			VU	EN
6	フクロウ		○				EN
計	6 種	0 種	6 種	0 種	0 種	5 種	6 種

※：重要な種の選定基準は、前掲表 10.5-4 に対応する。

表 10.5-20(1) 重要な種の確認状況（猛禽類）

No.	種名	分布・生態等	対象事業実施区域		確認状況
			内	外	
1	ミサゴ	<ul style="list-style-type: none"> 主に海岸や湖沼、大河川などの水辺に周年生息するが、冬季は暖地へ移動するものも多い。海岸や山中で繁殖し、大岩の頂や樹冠部に営巣する。海上の灯台や高圧線の鉄塔など人工物に営巣する例も知られている。 ボラやスズキ、トビウオなどの魚類を餌とし、水面近くに浮上した魚を、ダイビングしたりすくいとったりして捕らえる。 		○	5 月、6 月にそれぞれ 1 例を確認した。繁殖に係る行動や調査範囲内での営巣（繁殖）は確認されなかった。
2	ハチクマ	<ul style="list-style-type: none"> 本州以北の低山から山地帯の森林に夏鳥として渡来する。渡りの時には小群を形成し、市街地の上空にも現れる。 昆虫類、ネズミ類、トカゲ類、カエルなどを捕食するが、ハチの幼虫や蛹を好んで食べる。クロスズメバチなどのジバチ類を特に好む。 		○	5 月に 2 例、6 月に 4 例を確認した。ディスプレイ飛行が 1 例確認されたが、調査範囲内での営巣（繁殖）は確認されなかった。
3	ハイタカ	<ul style="list-style-type: none"> 日本では本州以北で繁殖する留鳥、冬には少数が暖地に移動する。平地から亜高山帯の林に生息し、林内や林縁、農耕地、草地などで獲物を捕まえる。 主にツグミ位までの鳥類を狩るが、ネズミやリス、ヒミズなどを捕まえることもある。 		○	3 月に 3 例、4 月に 3 例、5 月に 2 例を確認した。繁殖に係る行動や調査範囲内での営巣（繁殖）は確認されなかった。

表 10.5-20(2) 重要な種の確認状況 (猛禽類)

No.	種名	分布・生態等	対象事業 実施区域		確認状況
			内	外	
4	オオタカ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四国の一部および本州、北海道の広い範囲で繁殖するが、繁殖記録は東日本で多く、西日本では少ない。留鳥として年中生息するが、秋から冬になると高地や山地のものの一部は低地や暖地に移動する。 ・ キジ、ヤマドリといった中型からやや大型の鳥類が多いが、ヒヨドリやツグミ類等のやや小型の鳥類、リスやウサギなどの哺乳類なども食べる。 		○	3月に1例、6月に2例を確認した。繁殖に係る行動や調査範囲内での営巣(繁殖)は確認されなかった。
5	サシバ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本には夏鳥として3~4月ごろ渡来し、9~10月ごろ渡去する。九州から青森県にかけて繁殖する。低山から丘陵の森林に生息し、周辺の水田などの開けた環境で狩りをする。 ・ ヘビを好んで食べるほか、ネズミ、モグラ、小鳥、カエルや、バッタなどの昆虫類もよく食べる。秋の渡りの時期には昆虫類が主食となる。木の上から地上を見張り、獲物を見つけると飛び下りて足指で捕える。 		○	5月、7月にそれぞれ1例を確認した。繁殖に係る行動や調査範囲内での営巣(繁殖)は確認されなかった。
6	フクロウ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本では北海道、本州、四国、九州にかけて見られる留鳥である。低地、低山帯から亜高山帯にかけてのいろいろなタイプの樹林にすみ、特に大きい樹木のある広葉樹林や針広混交林を好む。密に茂った針葉樹林でも見られる。 ・ 夜行性で林縁や下枝の少ない樹林などで採食する。ネズミなどの小型哺乳類や鳥類などを捕食する。地上の匍匐潜行型のネズミ類やモモンガなど活動時間帯の合うものが多い。 		○	春季調査時に2地点で3個体、初夏季に2地点で2個体、夏季に1地点で1個体確認した。確認環境は樹林であった。

生息地保全の観点から、本書では位置図を掲載しておりません。

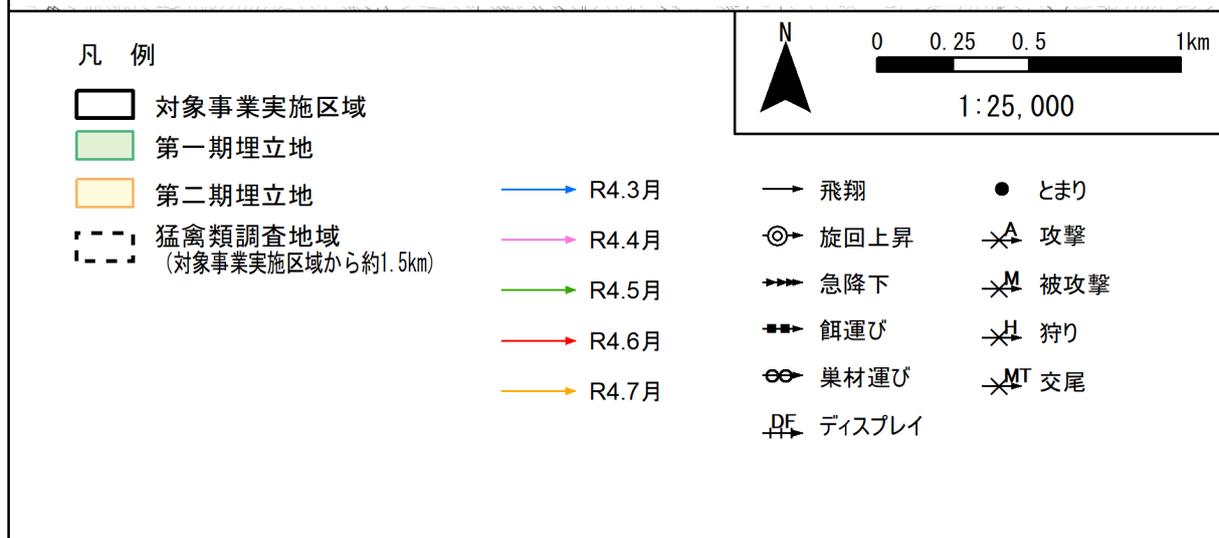


図 10.5-4(1) ミサゴの飛翔図

生息地保全の観点から、本書では置図を掲載しておりません。

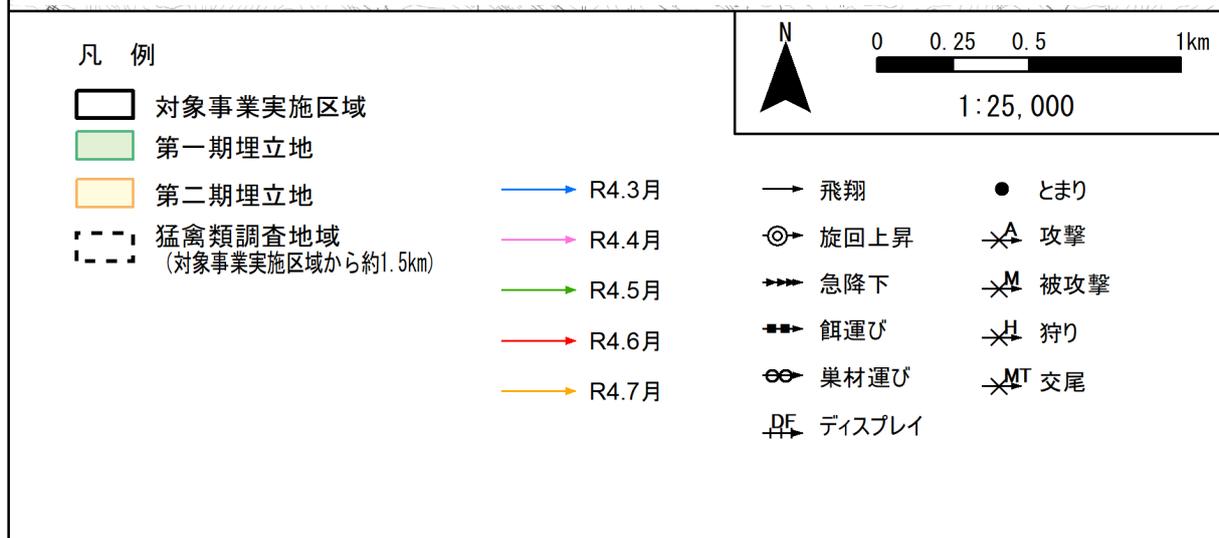


図 10.5-4(2) ハチクマの飛翔図

生息地保全の観点から、本書では位置図を掲載しておりません。

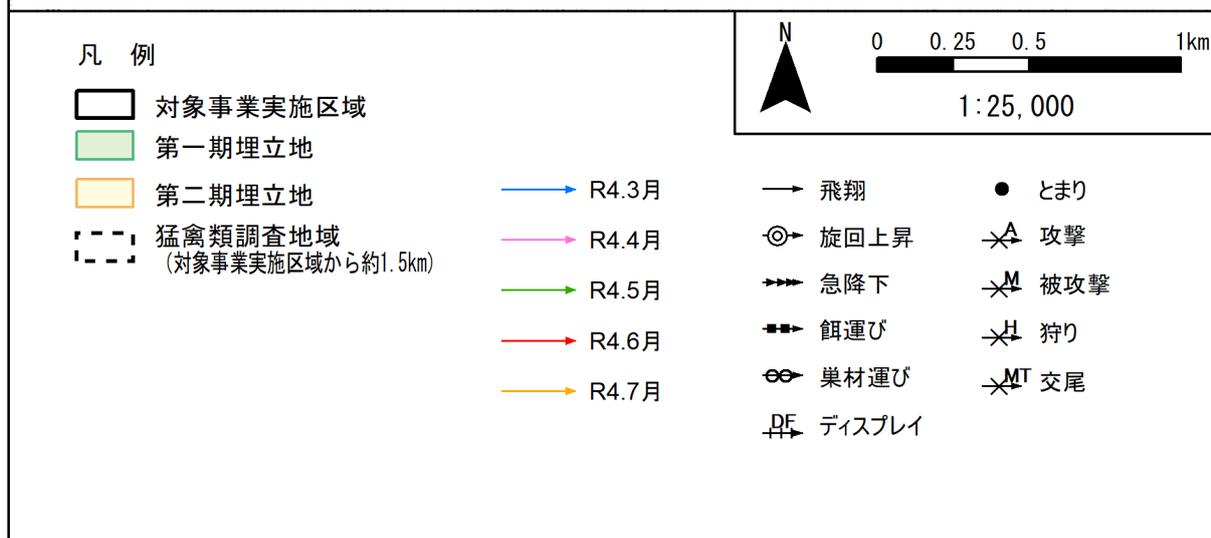


図 10.5-4(3) ハイタカの飛翔図

生息地保全の観点から、本書では位置図を掲載しておりません。

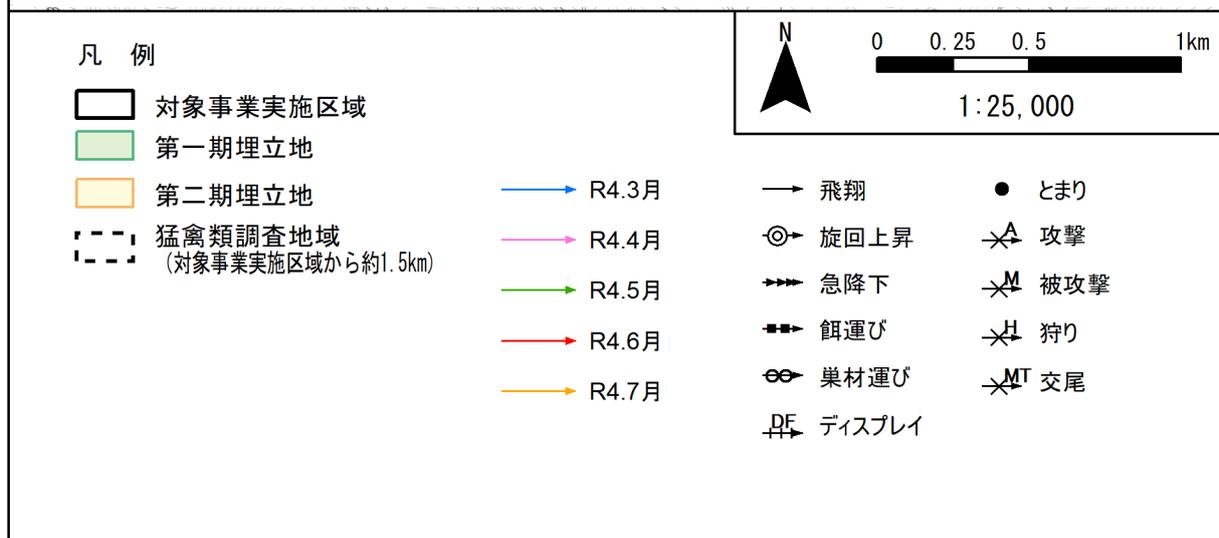


図 10.5-4(4) オオタカの飛翔図

生息地保全の観点から、本書では位置図を掲載しておりません。

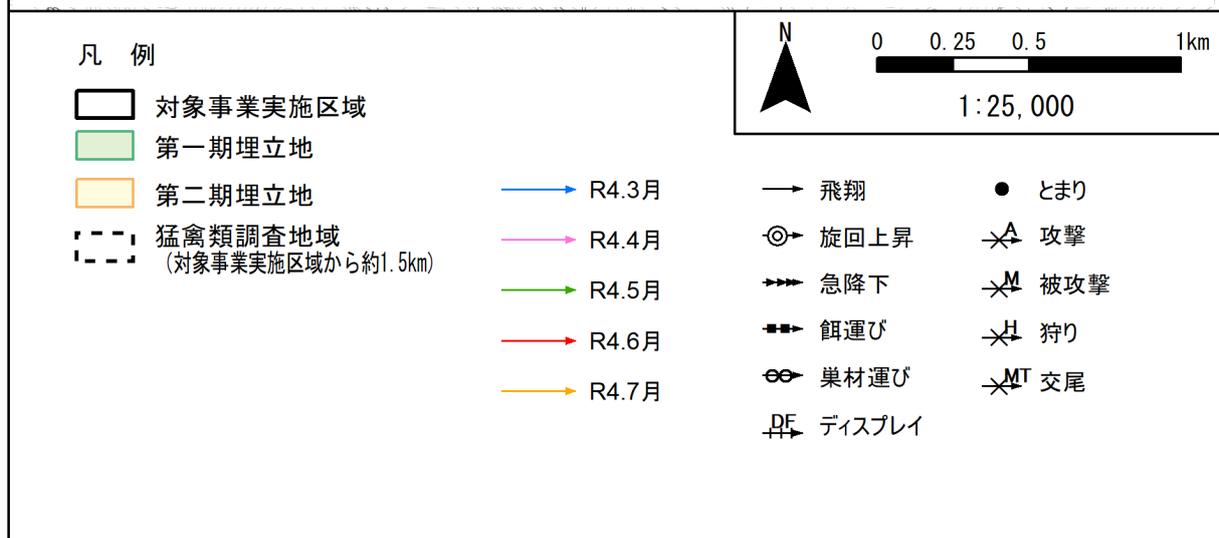


図 10.5-4(5) サシバの飛翔図

生息地保全の観点から、本書では位置図を掲載しておりません。

凡 例

-  対象事業実施区域
-  市界
-  第一期埋立地
-  第二期埋立地
-  動物植物調査範囲
(対象事業実施区域から250m程度)

重要な種確認位置

-  春季
-  初夏
-  夏季
-  秋季
-  冬季



0 100 200 400m

1:10,000

※: 図中の数字は確認個体数を示す。

図 10.5-4(6) 重要種位置図 (フクロウ)

イ) 爬虫類

確認された爬虫類のうち、表 10.5-21 に示すとおり 1 種が重要な種に該当し、対象事業実施区域内外で確認された。

確認状況は、表 10.5-22 及び図 10.5-5 に示すとおりである。

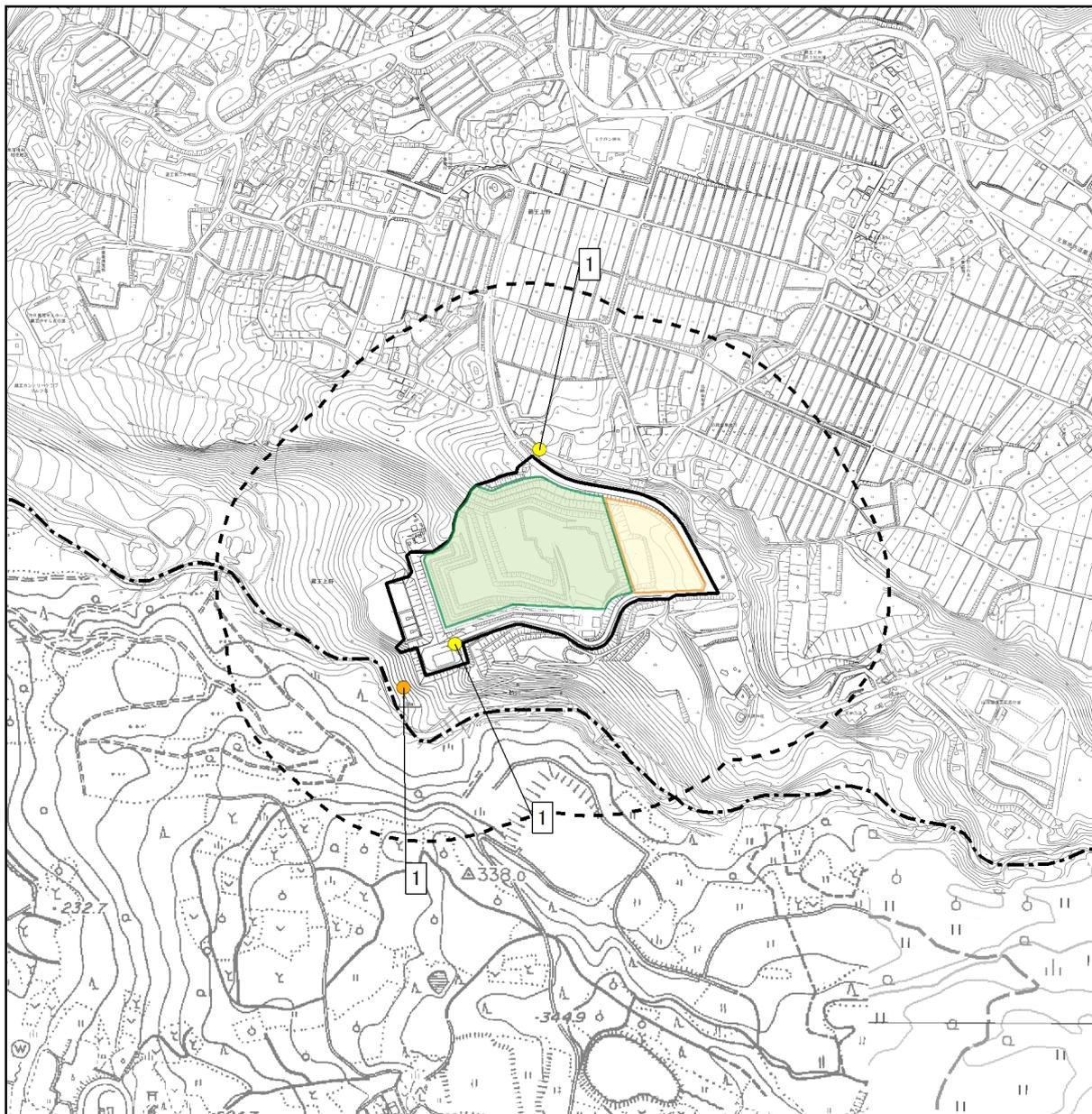
表 10.5-21 重要な種（爬虫類）

No.	種名	対象事業実施区域		重要な種の選定基準*			
		内	外	I	II	III	IV
1	ジムグリ	○	○				DD
計	1 種	1 種	1 種	0 種	0 種	0 種	1 種

※：重要な種の選定基準は、前掲表 10.5-4 に対応する。

表 10.5-22 重要な種の確認状況（爬虫類）

No.	種名	分布・生態等	事業実施対象地域		確認状況
			内	外	
1	ジムグリ	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州および周辺の島嶼に分布する。 ・主に昼行性で、低地から亜高山帯の林の中で見かける。 ・交尾期は 4～5 月。卵生で、重さ 12～21g くらいの卵を 3～7 個ほど産む。 ・野外食性は主に小型哺乳類からなる。 ・地面によく潜る習性がある。 	○	○	(区域内) 秋季調査時に 1 地点で幼体の死体を 1 個体確認した。確認環境は造成地であった。 (区域外) 早春季調査時に 1 地点で成体を 1 個体、秋季調査時に 1 地点で成体の死体を 1 個体確認した。確認環境は落葉広葉樹林や道路沿いの草地であった。

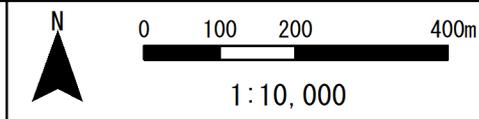


凡例

- 対象事業実施区域
- 市界
- 第一期埋立地
- 第二期埋立地
- - - 動物植物調査範囲
(対象事業実施区域から250m程度)

重要な種確認位置

- 早春季
- 春季
- 夏季
- 秋季



※: 図中の数字は確認個体数を示す。

図 10.5-5 重要種位置図 (ジムグリ)

カ) 両生類

確認された両生類のうち、表 10.5-23 に示すとおり 3 種が重要な種に該当した。

サンショウウオ属はトウホクサンショウウオまたはクロサンショウウオと考えられるが、幼生での確認であり同定形質が不明瞭で、種を特定するには至らなかった。

全ての種が対象事業実施区域外で確認された。

各種の確認状況は、表 10.5-24 及び図 10.5-6 に示すとおりである。

表 10.5-23 重要な種（両生類）

No.	種名	対象事業 実施区域		重要な種の選定基準 ^{※1}			
		内	外	I	II	III	IV
1	トウホクサンショウウオ		○			NT	NT
—	サンショウウオ属 ^{※2,3}		(○)			(NT)	(NT)
2	アカハライモリ		○			NT	NT
3	トノサマガエル		○			NT	NT
計	3 種	0 種	3 種	0 種	0 種	3 種	3 種

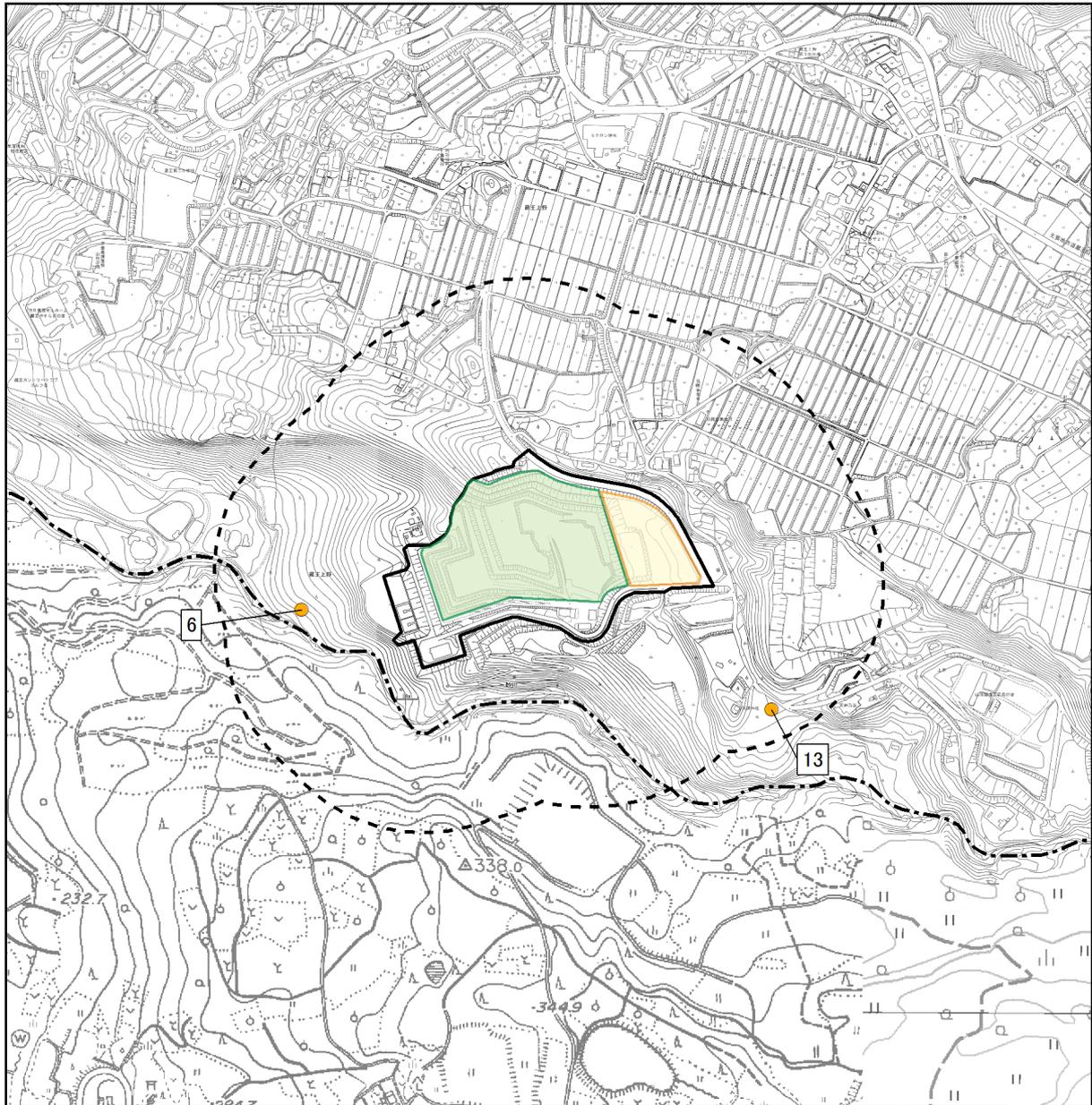
※1：重要な種の選定基準は、前掲表 10.5-4 に対応する。

※2：サンショウウオ属はトウホクサンショウウオまたはクロサンショウウオと考えられるが、幼生での確認であり同定形質が不明瞭であったため、種を特定するには至らなかった。

※3：重要な種の選定基準III、IVにおいて、トウホクサンショウウオ、クロサンショウウオのいずれも「NT」に該当する。

表 10.5-24 重要な種の確認状況（両生類）

No.	種名	分布・生態等	事業実施対象地域		確認状況
			内	外	
1	トウホクサンショウウオ	<ul style="list-style-type: none"> ・本州の東北地方および新潟県、群馬県、栃木県に広く分布する。 ・低山地に多いが、海岸近くから標高1,500mの高山帯にも生息する。 ・1～6月頃に、細い細流のよどみや湧水、浅い沼等で、ゆるい水流のある場所に産卵する。 ・卵のうは曲がったひも状で透明、水底の石や木の枝などに1対ずつ産みつけられる。 		○	早春季調査時に2地点で卵のうを計19対確認した。確認環境はスギ林内の水溜りやため池であった。
—	サンショウウオ属 ・トウホクサンショウウオ ・クロサンショウウオ	<ul style="list-style-type: none"> （トウホクサンショウウオ） ・トウホクサンショウウオの項を参照。 （クロサンショウウオ） ・東北地方、北関東、中部地方北部、福井県北部まで広く分布する。 ・海岸近くの平地にも山地にも生息するが、分布の南限に近いところでは高山帯に多い。 ・止水性で、比較的水深のある池や水溜りに群をなして産卵する。 ・卵のうは紡錘形で大きく、透明な外層と乳白色で不透明な内層でできている。 ・幼生は食欲でよく共食いをし、幼生で越冬することもある。 		○	早春季調査時に1地点で幼生を10個体確認した。確認環境はため池であった。
2	アカハライモリ	<ul style="list-style-type: none"> ・本州、四国、九州および周辺の島嶼に分布する。 ・低地から山地の水田、池、溪流、溝などに見られる。 ・4～7月頃に、池や水溜りなどの止水の水草に1卵ずつ産卵する。 ・幼生は年内に変態する。 ・非常に貪食で、動物質のものなら種類を選ばず食べる。 		○	早春季調査時に1地点で成体を1個体、春季調査時に1地点で成体を2個体確認した。確認環境は休耕田やため池、水田脇の用水路であった。
3	トノサマガエル	<ul style="list-style-type: none"> ・本州の仙台平野から関東地方を除いた地域、四国、九州、種子島、朝鮮、中国などに分布する。 ・平地に多いが、適当な繁殖場所があれば山地にも生息する。 ・繁殖期は4～6月で、多数の個体が水田などに集まる。 ・卵塊は大きく、800～3,000個の卵を含む。 ・幼生は最大で70mmほどに成長し、7～9月にかけて変態して上陸する。 		○	早春季調査時に1地点で成体を1個体、春季調査時に1地点で成体を5個体、夏季調査時に1地点で成体を2個体、秋季調査時に1地点で成体の死体を1個体確認した。確認環境は水田や水田脇の用水路であった。

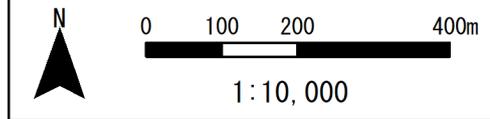


凡例

- 対象事業実施区域
- 市界
- 第一期埋立地
- 第二期埋立地
- 動物植物調査範囲
(対象事業実施区域から250m程度)

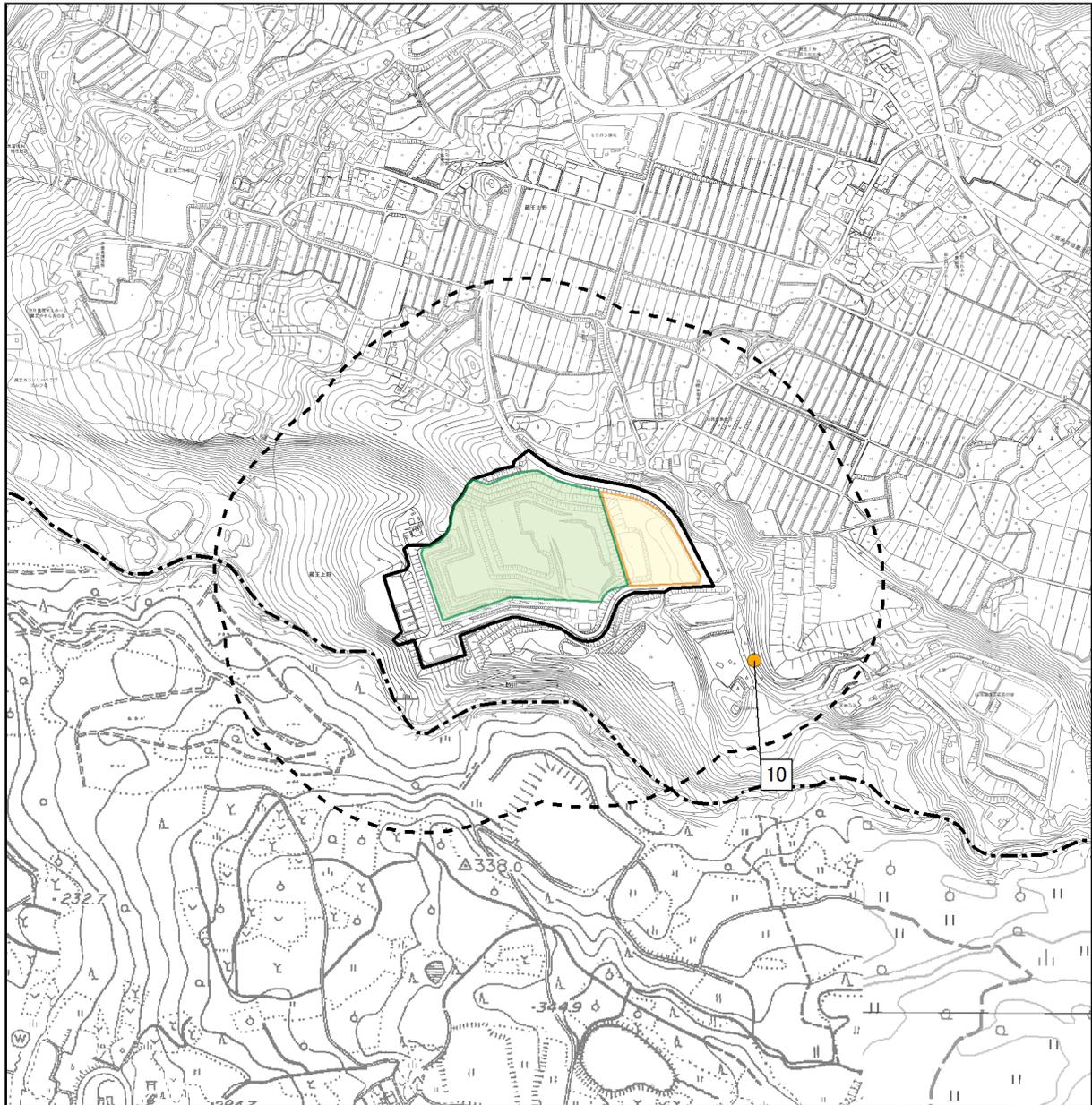
重要な種確認位置

- 早春季
- 春季
- 夏季
- 秋季



※: 図中の数字は確認個体数を示す。

図 10.5-6(1) 重要種位置図 (トウホクサンショウウオ)

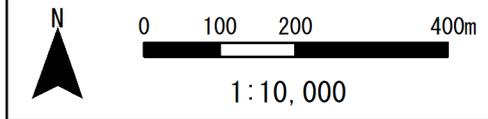


凡例

- 対象事業実施区域
- 市界
- 第一期埋立地
- 第二期埋立地
- 動物植物調査範囲
(対象事業実施区域から250m程度)

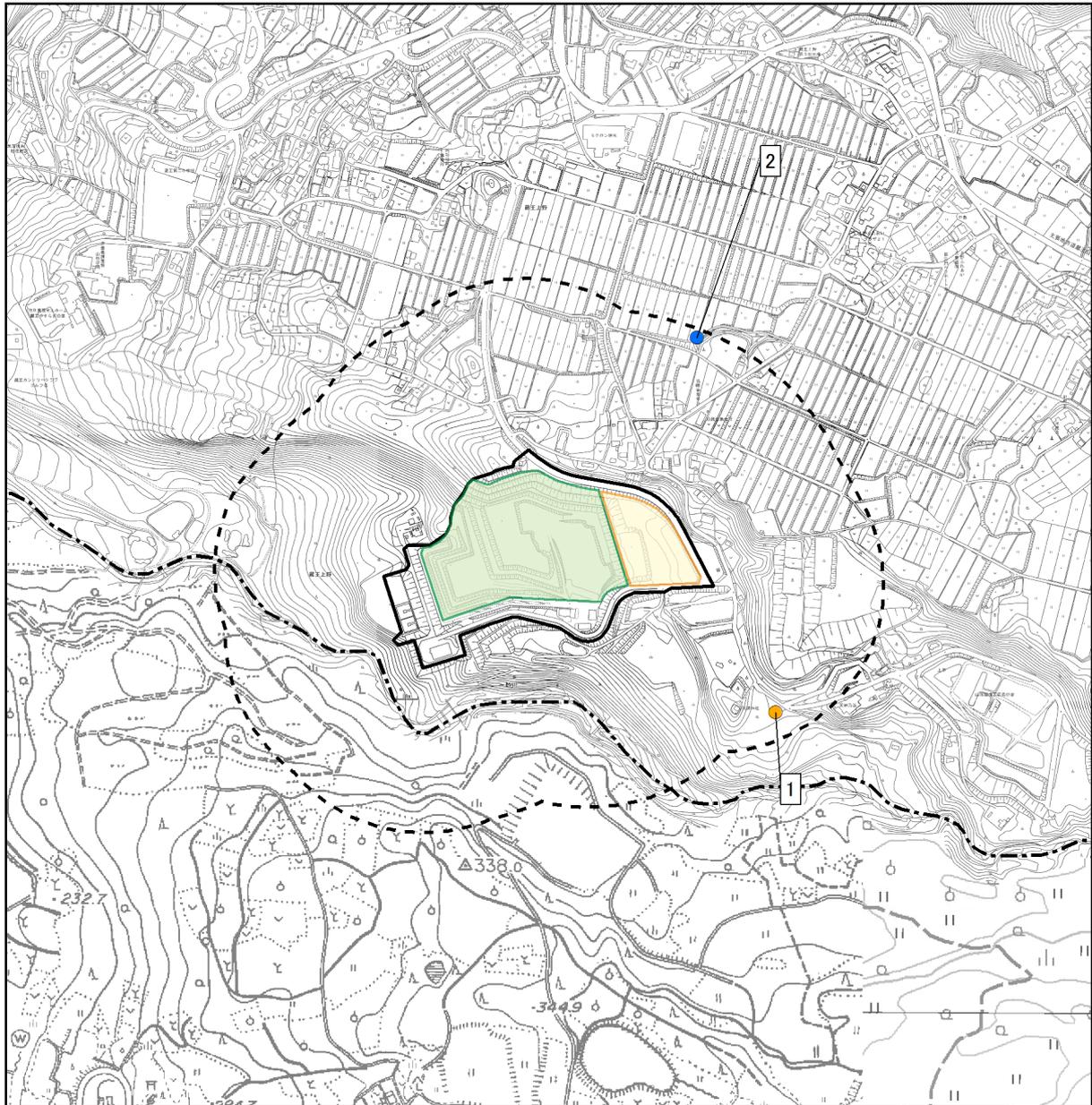
重要な種確認位置

- 早春季
- 春季
- 夏季
- 秋季



※: 図中の数字は確認個体数を示す。

図 10.5-6(2) 重要種位置図 (サンショウウオ属)

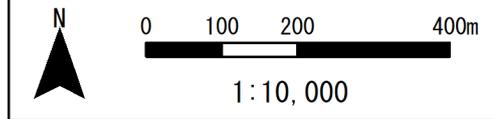


凡 例

- 対象事業実施区域
- 市界
- 第一期埋立地
- 第二期埋立地
- 動物植物調査範囲
(対象事業実施区域から250m程度)

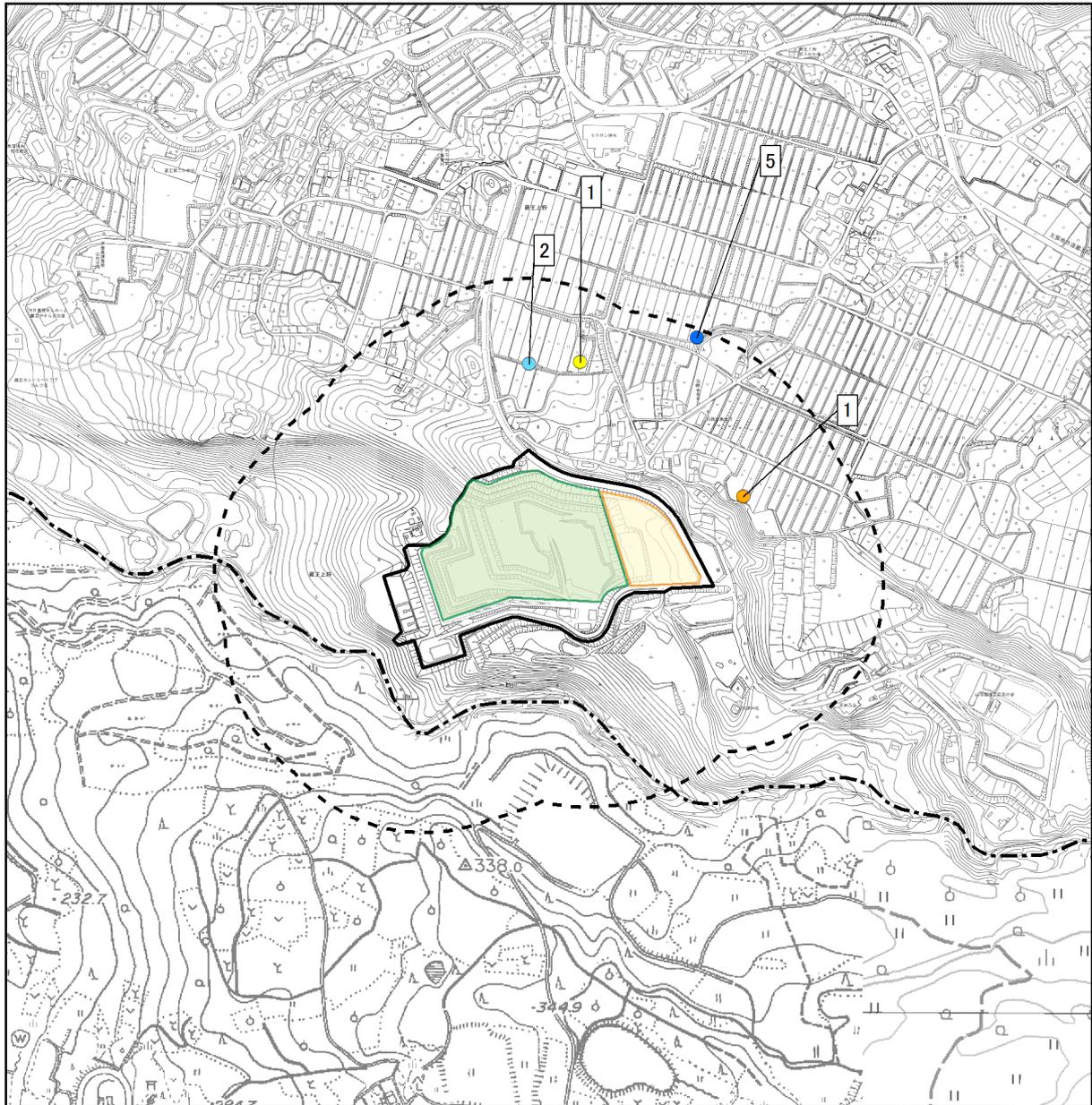
重要な種確認位置

- 早春季
- 春季
- 夏季
- 秋季



※: 図中の数字は確認個体数を示す。

図 10.5-6(3) 重要種位置図 (アカハライモリ)

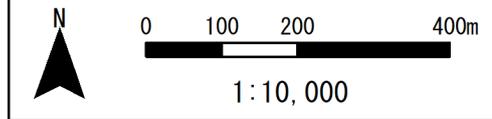


凡 例

- 対象事業実施区域
- 市界
- 第一期埋立地
- 第二期埋立地
- 動物植物調査範囲
(対象事業実施区域から250m程度)

重要な種確認位置

- 早春季
- 春季
- 夏季
- 秋季



※: 図中の数字は確認個体数を示す。

図 10.5-6(4) 重要種位置図 (トノサマガエル)

か) 昆虫類

確認された昆虫類のうち、表 10.5-25 に示すとおり 9 種が重要な種に該当した。

対象事業実施区域内で 3 種、区域外で 7 種が確認された。

各種の確認状況は、表 10.5-26 及び図 10.5-7 に示すとおりである。

表 10.5-25 重要な種（昆虫類）

No.	種名	対象事業 実施区域		重要な種の選定基準*			
		内	外	I	II	III	IV
1	ミツカドコオロギ	○					NT
2	イボバッタ	○					NT
3	マダラウスバカゲロウ		○				NT
4	ミヤマチャバネセセリ		○				NT
5	ウラギンスジヒョウモン		○			VU	NT
6	オオムラサキ		○			NT	NT
7	コガムシ		○			DD	
8	モンスズメバチ		○			DD	DD
9	クロマルハナバチ	○	○			NT	NT
計	9 種	3 種	7 種	0 種	0 種	5 種	8 種

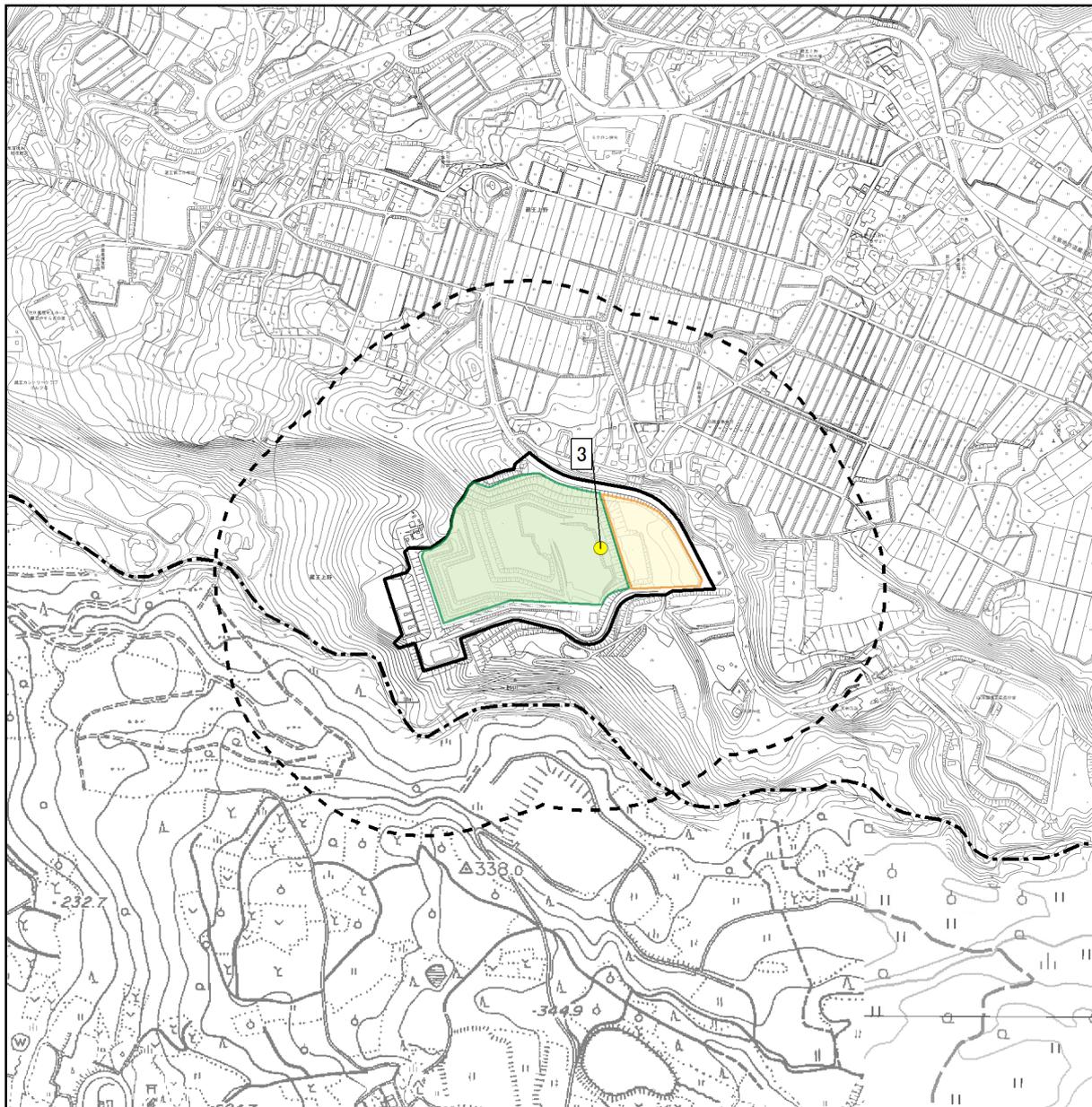
※：重要な種の選定基準は、前掲表 10.5-4 に対応する。

表 10.5-26(1) 重要な種の確認状況（昆虫類）

No.	種名	分布・生態等	事業実施 対象地域		確認状況
			内	外	
1	ミツカドコオロギ	<ul style="list-style-type: none"> ・本州、四国、九州、対馬、大隅諸島黒島等に分布する。 ・鳴き声はハラオカメコオロギに似て、鋭い。卵越冬で年 1 化。 	○		秋季調査時に 1 地点で 3 個体確認した。確認環境は造成地であった。
2	イボバッタ	<ul style="list-style-type: none"> ・本州、四国、九州、その他多くの離島に分布する。 ・年 1 化で、成虫は 7～11 月に見られる。 ・体色が有効な隠蔽色となり、地面が露出した場所にいる。強い陽射しや乾燥に強く、よく飛ぶ。 	○		秋季調査時に 1 地点で 2 個体確認した。確認環境は造成地であった。
3	マダラウスバカゲロウ	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州に分布する。 ・成虫は 6 月上旬から 9 月中旬にわたって出現する。 ・幼虫は噴火口状の穴を作らず、岩の表面や樹皮などの凹所に静止し、小昆虫を捕食して成長する。 		○	夏季調査時に 1 地点で 1 個体確認した。確認環境は樹林であった。
4	ミヤマチャバネセセリ	<ul style="list-style-type: none"> ・本州（隠岐島を含む）、四国、九州に分布する。 ・通常年 2 回（4 月中旬～5 月上旬、7 月上旬～8 月上旬）発生する。 ・成虫は高地の草原や山間の路傍、湿原の周縁に多く生息し、飛翔は敏速だがアザミ類、オカトラノオ、ウツギなどで吸蜜し、雄は湿地で吸水もする。 ・主な食草はイネ科のススキで、ヨシ、アブラススキからも幼虫が見つっている。越冬態は蛹。 		○	春季調査時に 1 地点で 1 個体確認した。確認環境は草地であった。

表 10.5-26(2) 重要な種の確認状況（昆虫類）

No.	種名	分布・生態等	事業実施対象地域		確認状況
			内	外	
5	ウラギンスジヒョウモン	<ul style="list-style-type: none"> 北海道、本州、四国、九州に分布する。 年1化で、成虫は暖地では5月下旬～6月上旬、山地、寒冷地では7月上旬～8月上旬に姿をみせる。 明るい草原、堤防などに多く生息し、飛翔は比較的敏速でアザミ類、オカトラノオ、ハナウド、ヒョドリバナ、シモツケソウなどの花で吸蜜する。 幼虫の食草はスミレ科の各種スミレ類で、越冬態は卵または初齢幼虫。 		○	夏季調査時に1地点で1個体確認した。確認環境は草地であった。
6	オオムラサキ	<ul style="list-style-type: none"> 北海道、本州、四国、九州に分布する。 年1化で、北海道や高地、寒冷地では7月上～中旬、暖地では6月中～下旬に出現する。 成虫は人家近くの雑木林に多く棲息し、クヌギ、クワなどの樹液やクリ、クサギなどの花で吸汁、吸蜜する。 幼虫は暖地ではニレ科のエノキ、寒冷地ではエゾエノキを食樹とする。越冬態は4齢幼虫（時に3齢または5齢）。 		○	春季調査時に3地点で5個体確認した。確認環境は樹林であった。
7	コガムシ	<ul style="list-style-type: none"> 北海道、本州、四国、九州に分布する。 一般的には、平野部～丘陵部の有機物の豊富な浅い池沼、湿地、水田に生息する。 6月頃に水草の間に白いまゆ状のゆりかごをつくり、その中に産卵する。成虫は主に草食性である。 幼虫は肉食性で他の水生昆虫や巻貝などを捕食する。3齢になり老熟すると岸辺に上陸し土中で蛹化する。 		○	春季調査時に2地点で計2個体、夏季調査時に1地点で1個体確認した。確認環境は水田や樹林地の林縁部であった。
8	モンスズメバチ	<ul style="list-style-type: none"> 北海道、本州、四国、九州、佐渡島に分布する。 餌としてセミ類を好んで捕えるとともに、各種のアシナガバチの巣を襲って、幼虫や蛹を餌とする。夕暮れ時から日没後にかけても巣外の活動が見られる。 		○	夏季調査時に1地点で1個体確認した。確認環境は樹林であった。
9	クロマルハナバチ	<ul style="list-style-type: none"> 本州、四国、九州に分布する。 女王は4～5月、働き蜂は5～10月、雄は7～10月に出現する。訪花植物はシロツメクサ、サクラ類、ツツジ類など。 	○	○	(区域内) 春季調査時に1地点で1個体、夏季調査時に3地点で計6個体確認した。確認環境は草地であった。 (区域外) 春季調査時に1地点で1個体、夏季調査時に2地点で計7個体確認した。確認環境は草地であった。

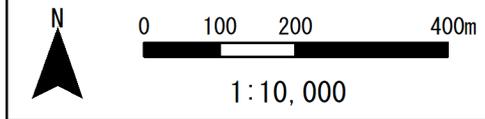


凡例

- 対象事業実施区域
- 市界
- 第一期埋立地
- 第二期埋立地
- 動物植物調査範囲
(対象事業実施区域から250m程度)

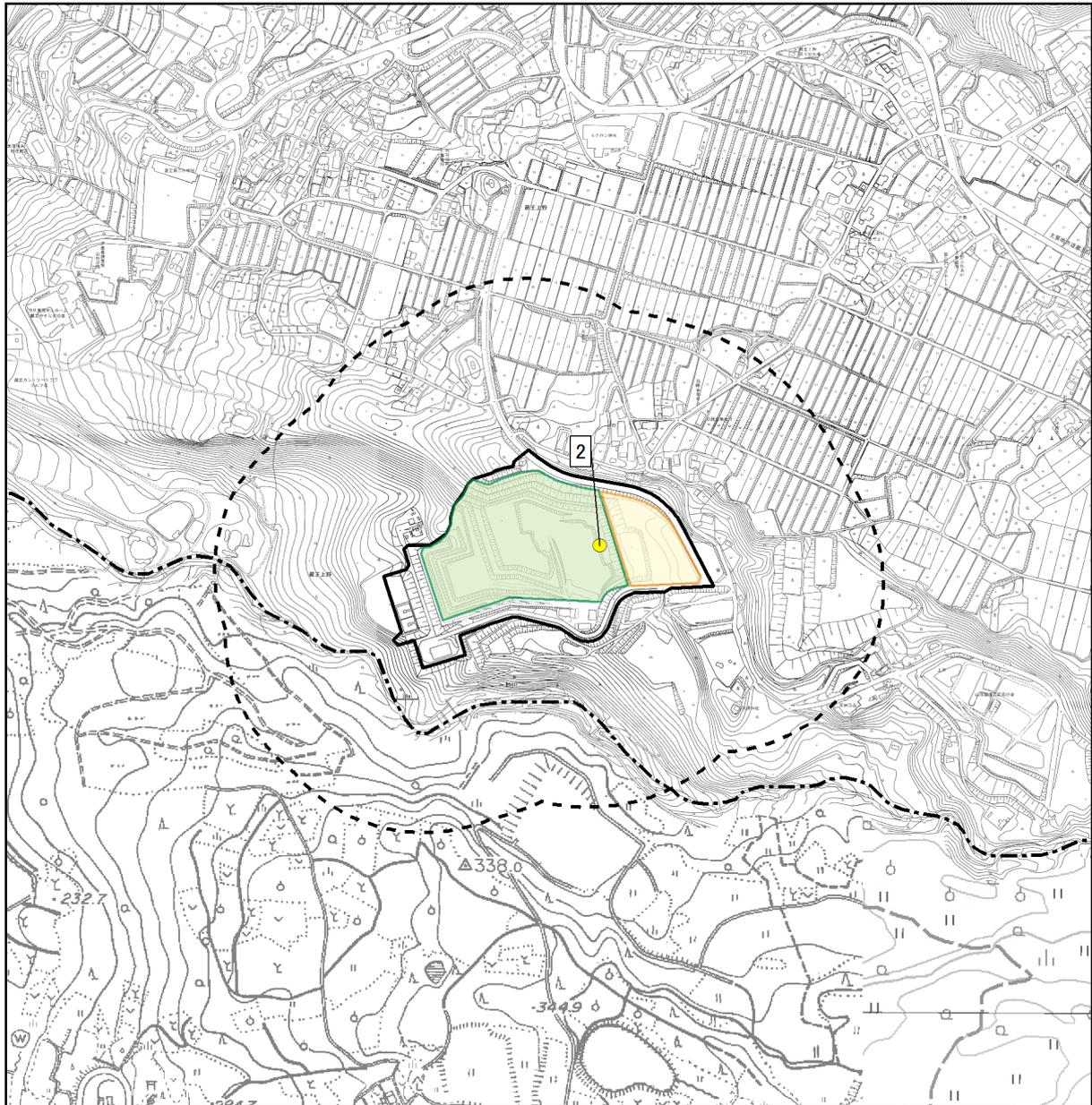
重要な種確認位置

- 春季
- 夏季
- 秋季



※: 図中の数字は確認個体数を示す。

図 10.5-7(1) 重要種位置図 (ミツカドコオロギ)

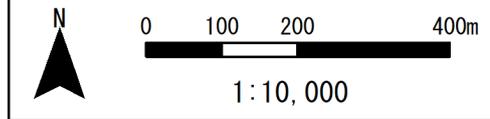


凡例

- 対象事業実施区域
- 市界
- 第一期埋立地
- 第二期埋立地
- 動物植物調査範囲
(対象事業実施区域から250m程度)

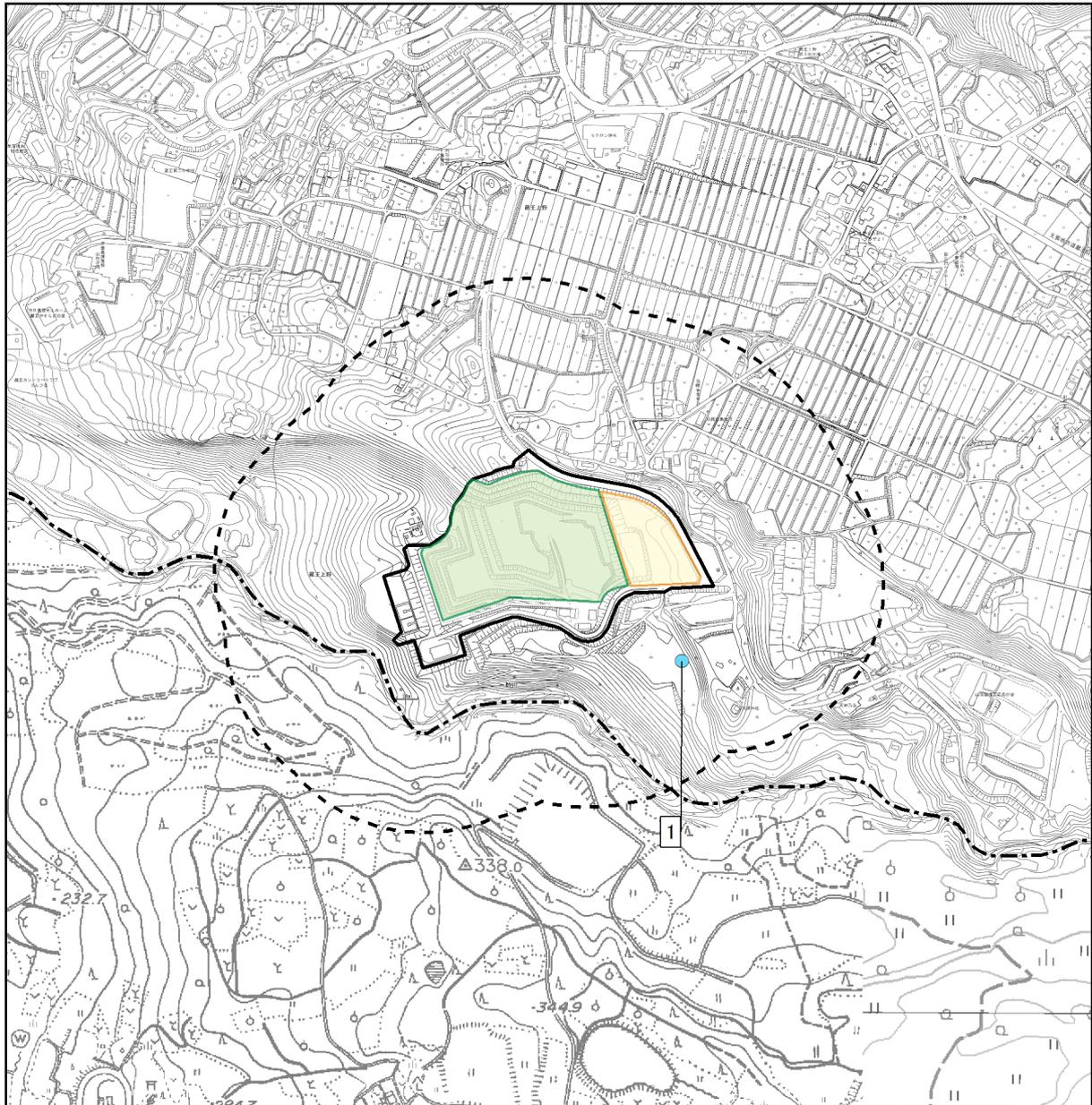
重要な種確認位置

- 春季
- 夏季
- 秋季



※: 図中の数字は確認個体数を示す。

図 10.5-7(2) 重要種位置図 (イボバツタ)

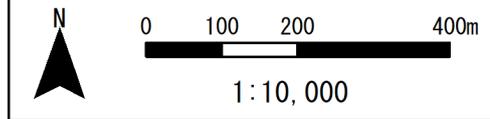


凡例

- 対象事業実施区域
- 市界
- 第一期埋立地
- 第二期埋立地
- 動物植物調査範囲
(対象事業実施区域から250m程度)

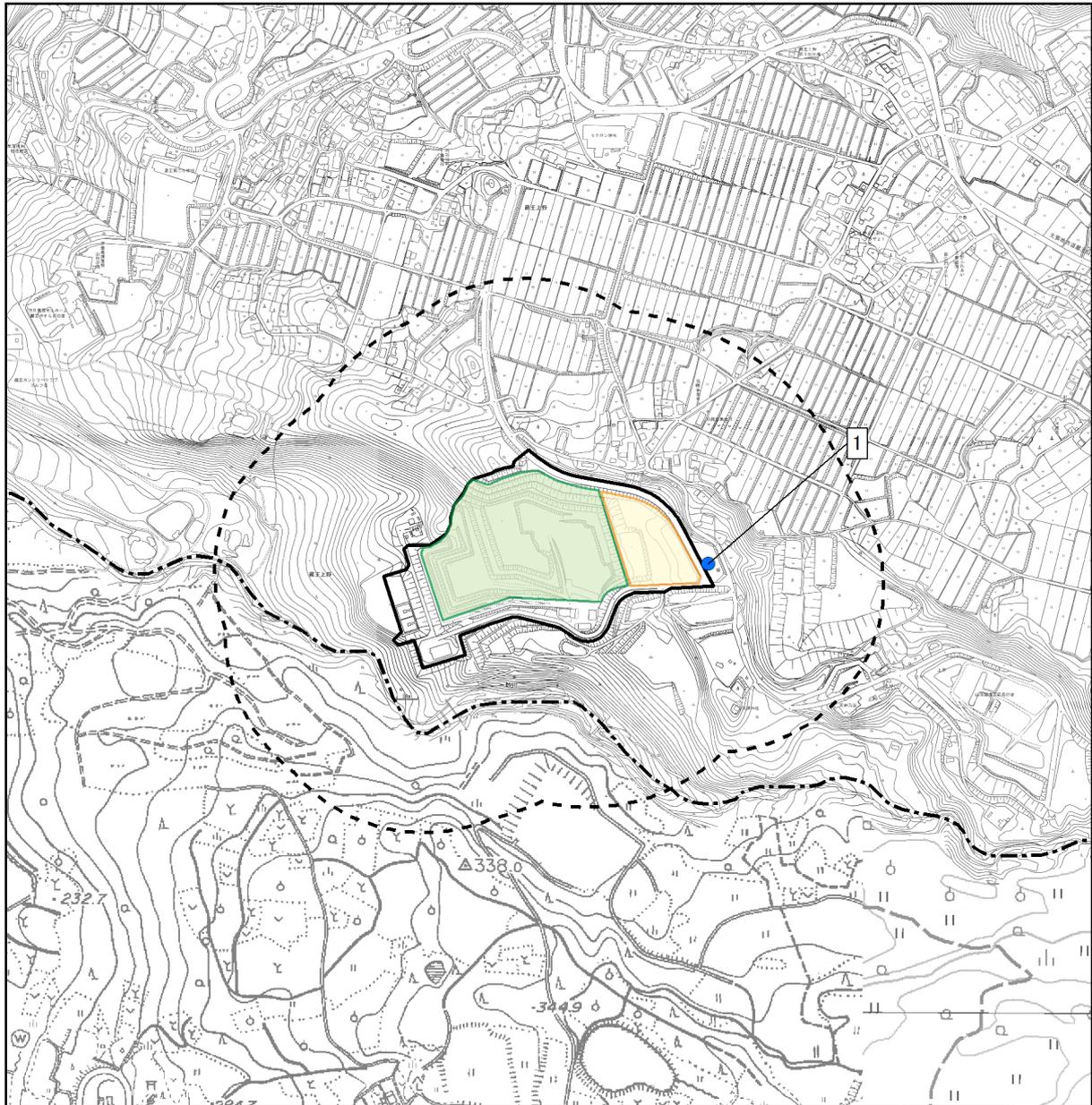
重要な種確認位置

- 春季
- 夏季
- 秋季



※: 図中の数字は確認個体数を示す。

図 10.5-7(3) 重要種位置図 (マダラウスバカゲロウ)

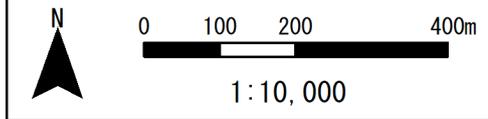


凡例

- 対象事業実施区域
- 市界
- 第一期埋立地
- 第二期埋立地
- 動物植物調査範囲
(対象事業実施区域から250m程度)

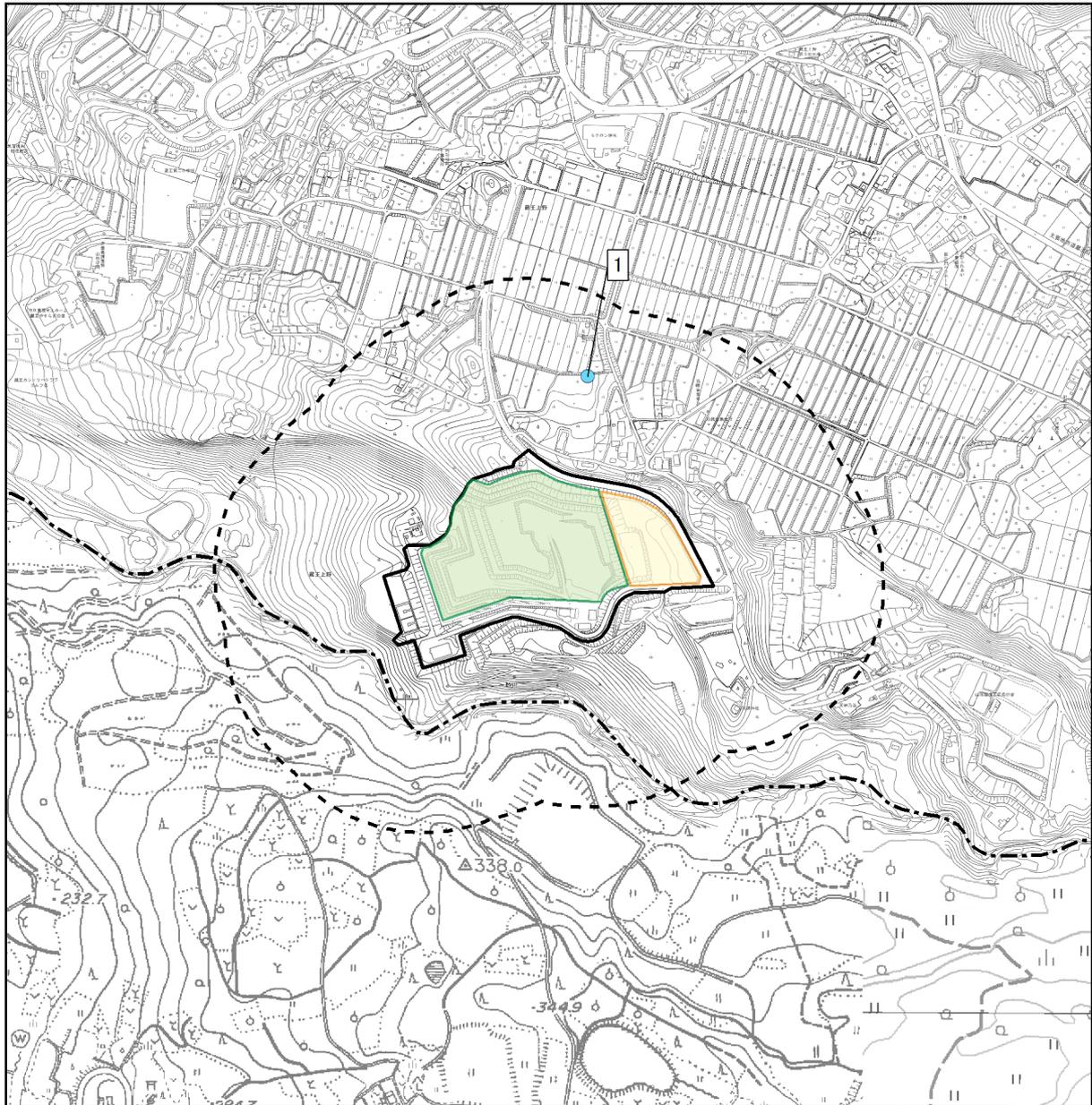
重要な種確認位置

- 春季
- 夏季
- 秋季



※: 図中の数字は確認個体数を示す。

図 10.5-7(4) 重要種位置図 (ミヤマチャバネセセリ)

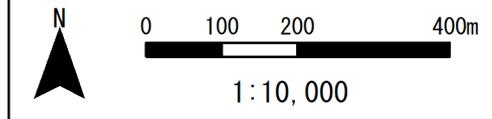


凡例

- 対象事業実施区域
- 市界
- 第一期埋立地
- 第二期埋立地
- 動物植物調査範囲
(対象事業実施区域から250m程度)

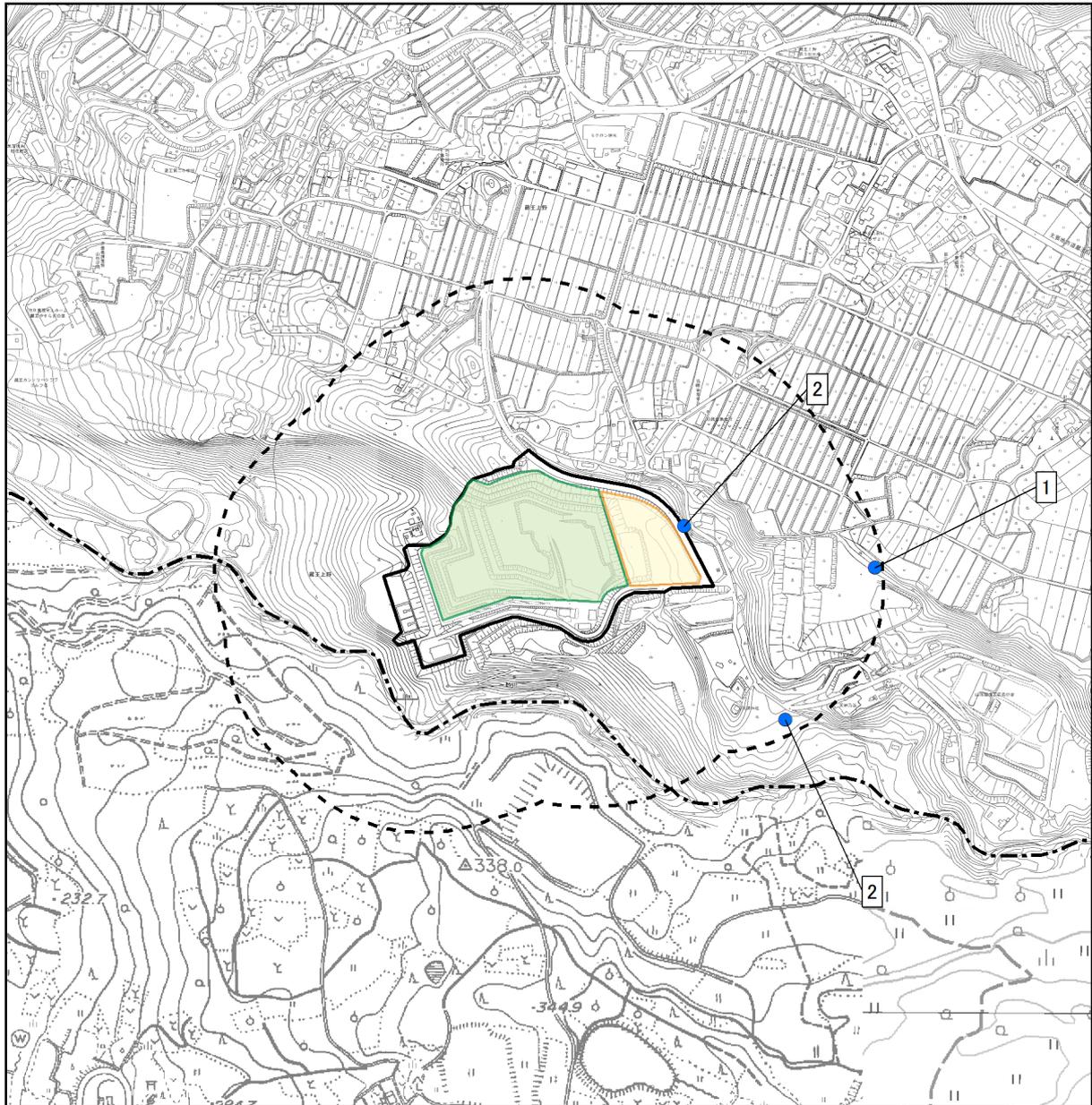
重要な種確認位置

- 春季
- 夏季
- 秋季



※: 図中の数字は確認個体数を示す。

図 10.5-7(5) 重要種位置図 (ウラギンスジヒョウモン)

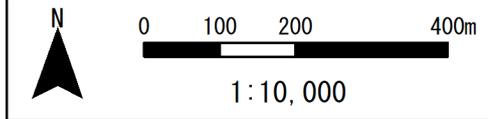


凡例

- 対象事業実施区域
- 市界
- 第一期埋立地
- 第二期埋立地
- - - 動物植物調査範囲
(対象事業実施区域から250m程度)

重要な種確認位置

- 春季
- 夏季
- 秋季



※: 図中の数字は確認個体数を示す。

図 10.5-7(6) 重要種位置図 (オオムラサキ)